



ワーカーズコープ連合会は、「第1回 ともにつくる、私たちの未来 地球環境サミット」を3月23日に連合会館にておこない、オンラインを含め117人が参加。連合会は、2020年1月に「環境・気候非常事態宣言」を出し、その後気候環境アクションチームを発足し、各加盟組織でのさまざまな環境・気候に関する活動に取り組んできました。今後、事業にしっかりと位置づけ、また組合員一人ひとりが意識的に取り組みを広げる必要を感じ、サミットを開催。

兵庫県豊岡市の前市長中貝宗治さんは、記念講演「Local&Globalの挑戦－世界の人々と地下水脈でつながる」で、人口減少対策として、若者にとって豊岡で暮らす価値・魅力を想像しようと、世界に通用する「小さな世界都市」をめざし、コウノトリ野生復帰など豊かな環境、農業、文化、演劇に力を入れていることを報告した。

鹿児島県大崎町の中野伸一さんは、リサイクル日本一の小さな町の取組を紹介。ゴミを27品目に分別し、資源ごみの売上から、進学のために町を離れた若者が戻ってくるために「未来創生奨学ローン」も作る。連合会からは、総合企画開発事務局長の伊藤剛さんが地域おこし協力隊として2024年4月より大崎町に出向している。

連合会加盟組織のなかで、新しく立ち上がった労働者協同組合でも環境問題に取り組む団体も多い。コモンウェーブ(三重県鈴鹿市)では不登校・ひきこもりの子どもたちと、野菜栽培、海岸のごみ拾いなどに

取り組んでいる。労協うえだ(長野県上田市)では、耕作放棄地を活用しソルガムの栽培をおこない、映画中村哲の上映会に参加し共感した方々やJA婦人部の方などとともに、かりまた共働組合(沖縄県宮古島市)のもずくやソルガムを小分けにし、道の駅などで販売している。

センター事業団山陰山陽事業本部の山口宇部出張所では、生活困窮者の就労準備事業を担うなかで、山口県JA中央会に依頼し、農家の収穫・出荷作業を手伝うことをきっかけに、中央会より農家の作業支援や草刈りなどの仕事が増えている。

労働者協同組合プラスチックフリー普及協会(神奈川県藤沢市)では、プラスチックによる海洋汚染を海洋調査よりつきとめ、エコストア「パパラギ」にて、マイクロプラスチックが出ない洗濯用ネットを開発販売したり、洗剤やナッツの量り売りや、サランラップが不要で何度も使用できるシリコン製のキャップなど、さまざまなプラスチックフリー商品や、気候環境に配慮した商品が所狭しと陳列販売されている。

連合会では、気候環境アクションチームが実行委員会を担い、今年もアースデイ東京(4月13日-14日、代々木公園)にて、首都圏のワーカーズコープが集まり「ワーカーズコープビレッジ」を出現させた。

現在、「エシカルワークス」という連合会の気候環境に関するHPを作成中で、各加盟組織の気候環境に関する取り組みを積極的に紹介し、取り組みを広げていく。